

健康・笑顔応援誌

ど〜もど〜も

48歳からの華やかな生き方応援します!

vol. **83**

2015.2月

[私の健康づくり]
遺品整理士認定協会 理事長
木村榮治さん

[特集]
高齢者との
コミュニケーションのとり方

発行 | **株式会社ど〜も**

〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-7-20 あべのグラントール1312
TEL.06-7505-3551 FAX.06-7505-3552 <http://do-mo-do-mo.com>

2015年2月4日発行(毎月1回4日発行) 通巻83号



83

私の健康づくり

じょうずな遺品整理業者の見分け方教えます

遺品整理士認定協会 理事長 木村榮治さん 51歳

一人暮らしの世帯が増加するなか、孤立死は年間約4万人にも達しています。その後始末として遺品整理が必要になってきますが、人生が凝縮されている遺品をどう処理すればよいのでしょうか。父親を突然亡くした木村榮治さんは、遺品整理業者の処理の仕方や仕事内容に疑問を持ち、「もっと遺品に対して礼を尽くすべきだ」と遺品整理士認定協会を立ち上げました。めったにない遺品整理ですが、上手な業者の見分け方などを教えていただきました。

遺品整理士にはモラルと法規制を学んで貰う

「遺品整理」という言葉が最近よく使われるようになりました。以前は引っ越し屋さんや運送会社、ハウスクリーニングなどの業者が遺品整理を行うことも多かったようです。また、老人ホームに入居するため、身の回りの整理を遺品整理業者さんに頼んで処分してもらう「生前整理」もあります。業者の多くは一般廃棄物収集運搬許可を持たずに事業を行っています。

なぜ、「専門の遺品整理士」が必要なのでしょう。「遺品整理業は参入障壁が低く、参入業者は10年前に比べ5倍以上になっていますが、それに比例して、遺品の不法投棄や、高齢者に

対する不当な高額請求などの問題も噴出しています。遺品整理は100人の依頼に100通りの人間模様があり、ただ物を廃棄するというものではありません」と木村さん。協会では遺品整理士になるため、モラルと法規制を学んで貰うカリキュラムにしているそうです。

通信教育で受講でき、現在1万人の受験者に対し6000人が遺品整理士に認定されています。

じょうずな遺品整理業者の見分け方

1. 詳細な見積書を出すところを選ぶ。見積書がなく、領収書だけを出すところは要注意
2. 不良品回収は無料といいながらも、荷物を積んだ後に廃棄処分料を請求されるケースがあるので、チラシで会社概要を確認する。電話が携帯だけのところは要注意
3. インターネットで検索する場合、各種許認可の表記があるかを確認する

思い出の多い遺品はなかなか処分できません。そんな人のために『遺品整理不正防止情報センター』を設けています。認定企業の中で優秀な企業350社を紹介。遺品整理の依頼だけでなく、相談だけでも利用できます。

プロフィール

木村榮治（きむら・えいじ）

1964年生まれ。一般社団法人遺品整理士認定協会理事長。北星学園大学社会福祉学部卒。2011年に同協会を設立。遺品整理業界の健全化を目指した活動を続けている。このほか、福祉IT企業、リサイクル会社等の現在10の役員を兼務している。北海道出身。血液型はA型。好きな言葉は「生きていることに日々感謝する」。

また、遺品の高額な着物や骨董品なども知らずに処分されるケースがあるため、新しく『遺品査定士』の養成講座も始まりました。

健康は体重計に1日5回ゴマをふんだんに食べる

現在10社の会社を経営する木村さんの住まいは北海道。多忙な生活のなか、健康づくりについて伺うと「運動はしていませんが、1日5回は体重計に乗ってチェックしています。出張中も体重計は持って行きますし、ベルトの穴がきつくなれば、朝は果物だけに調整します。また、髪の毛が抜ける家系なので、どんな料理にもゴマをふりかけて食べています。いまのところいいようです」と健康管理も万全。

その一方で「遺品整理すると、一人暮らしの40代や50代の方が多く亡くなっておられます。不規則な生活で何もいらないというケースも少なくありませんが、私は社会に役立つよう長生きしたいと思っています」という本音も。それが几帳面な健康づくりを後押ししているようです。